平成２６年度 自己評価書　足立区立渕江中学校　学校長 惣　田　修　一

１．総評

(1) 年度初めの学校の状況　【学校の現状及び前年度の成果と課題】

＜学校の現状＞
落ち着いた学校生活を堅持している。三大行事（運動会・文化祭・合唱コンクール）で、生徒・保護者（地域）・教職員が、三位一体となって感動を作り上げようという気運が、その下支えとなっている。
＜前年度の成果＞
行事での成功体験が、「たくましく生きる力」の育成に寄与している。さらに、学習面を重視することによって、文武両道を目指すという方向性を生徒が意識し始めてきた。
＜課題＞
基礎学力の定着と学力向上、秩序と活力のある学校生活の堅持、小中連携を活かした授業力の向上

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要

重点的な取組事項－１　基礎学力の定着と学力の向上
①１日の時程を大幅に変更し、年間を通じて渕江タイム（基礎学力定着テスト事前学習）と渕江チャレンジ（基礎学力定着テスト事後学習）という２種類の放課後補充教室（それぞれ 30 分）を実施する。
②基礎学力定着テスト年６回以上実施し、「わかった・できた」という達成感を抱かせる。目標合格率 80%以上。
③家庭学習ノートの毎日提出：大学ノート１日２ページ分の家庭学習を全生徒に課し、毎日提出させる。
④各種検定試験の奨励：英検・漢検・数検受験者を増やし、自主的学習能力の向上を図る。

重点的な取組事項－２　秩序と活力のある学校生活
①成就感のある三大行事の推進：生徒全員に一人一役で役割を与え、自己肯定感を高める。
②人権尊重に配慮した個別指導：年３回のいじめ質問紙調査と個別面談の実施～いじめを見逃さない指導の徹底
③不登校生徒への対応改善：教育相談部会を中心に対応を強化～不登校出現率を 3.0%以下(前年度比 0.1%減)

重点的な取組事項－３　学力向上を視点とした小中連携事業と OJT を活用した教員の指導力向上
①年間に６回の小中連携研修を実施し、教科別分科会を活かした小中合同の授業研究を２回実施する。
②わかる授業の展開：小学校への授業公開を兼ね、全教員が校内研究授業を実施する。
③小学校への乗り入れ授業の実施～乗り入れ授業１教科以上で実施

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１　基礎学力の定着と学力の向上
①渕江タイムと渕江チャレンジは、合計で６２日間実施することができた。満点合格と普通合格という２つのレベルを設定することで、多くの生徒に達成すべき目標を与えることができた。渕江チャレンジの日数増が課題。
②１月末までに、基礎学力定着テストを５教科で６回実施（英語は２回実施、年度末までに数学と国語についても２回目を実施する予定）した。結果、渕江チャレンジでの追加合格者を含め平均合格率は 95%であった。
③全校生徒の 87%（昨年度比 16%増）が、家庭学習ノートを提出し、自主学習率が向上した。100%を目指す。
④各種検定試験受験者合計 379 名（英検：160 名　数検：33 名　漢検：186 名）次年度も受験を奨励していく。

重点的な取組事項－２　秩序と活力のある学校生活
①行事後の感想から、90%以上の生徒が各行事から達成感を得ている。次年度もこの風土を維持していく。
②人権に関わること、特にいじめに関することは、組織で情報を共有し即時対応してきた。この姿勢を堅持。
③不登校出現率は 2.9%だった。２人の SC によって１年生全員に対する教育相談を実施。不登校生徒０を目指す。

重点的な取組事項－３　学力向上を視点とした小中連携事業と OJT を活用した教員の指導力向上
①６つの分科会を設置し、小・中学校それぞれで２回の指導案検討会後、研究授業を実施した。次年度は 10 回。
②全教員が指導案作成の上、研究授業を実施し、授業力の向上を目指した。足立スタンダードへの理解が課題。
③小学校への乗り入れ授業は、実現できなかった。時期尚早であった。学力向上につながる授業研究が課題。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

本校は、19 学級で生徒数 700 名を越える都内でも屈指のマンモス校です。学校経営の骨子は「人は学ぶ。人は変わる。人は輝く。」です。感動のある学校生活を創り出す一方で基礎学力の定着と学力の向上を重点課題としています。「主体的に学ぶ生徒」「使命感に燃える教師集団」を目指し、充実した学校運営を推進していきます。

平成２６年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎:十分に達成　 〇:おおむね達成　 △:達成せず　 ●:課題が残る＞

重点的な取組事項－１　学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
平成 26 年度区学力調査結果の目標通過率において前年度(45%)比３%増	区学力調査 通過率 48%	4 月実施学力調査の通過率の平均は 46.4%であった。	目標には 1.6%及ばなかったが上昇傾向。基礎学力定着を一層図る。	●

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<基礎学力定着>放課後補充教室の実施	年間を通じて毎日 30 分の補充教室を実施する	「勉強がわからない生徒」に対して、学習状況を踏まえた指導を行う。	渕江タイム･チャレンジという 2 種類の補充教室を 62 日、定期考査前補充 12 日実施	学力向上への意識は高まった。課題は通過率の向上	○
<基礎学力向上>放課後学習教室の実施	週 2 日の学習教室を実施する（全学年対象）	教員、副担任講師、学習支援員を中心として学習教室を実施する。	白鷺塾という名前で 1 月末現在 35 回実施。対象生徒は約 40 名	参加生徒の学習意欲は高い。取組負荷が大。	○
<学習意欲の喚起>全学年統一基礎学力定着テストの実施	年 6 回以上基礎学力テストを実施。目標合格率 80%以上	全学年統一の実施日を設定、事前・事後で集中した取組を実施し、合格率を高める。	1 月末 6 回実施。渕江タイム･チャレンジの実施により、平均合格率を 95%に高めた。	テスト合格に対する生徒の達成感は非常に大きい。	◎
<発展的学習意欲の向上>各種検定試験の奨励	合計の受験者数前年度比 5%増	英検・数検・漢検それぞれの受験への積極的奨励	2 月末受験者数 379 名（前年度 357 名）	積極的受験を奨励していく	◎
<自学自習能力の向上>家庭学習ノートの毎日提出	全生徒の提出率前年度比５%増	各担任による毎日の点検活動	平均提出率は全学年平均で 87% (昨年度比 16%増)	各担任と副担任による日々の努力の成果	◎

重点的な取組事項－２　秩序と活力のある学校生活

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
成就感・達成感のある学校生活の堅持	学年末生徒アンケートで本校への肯定的評価 90%以上	「本校に入学してよかったという生徒の割合は平均で 97%だった。	「学校が楽しい」と感じている生徒の割合は平均で 96%、次年度も堅持する。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
成就感のある行事の推進	90%以上の生徒が各行事での成就感を得る	自己肯定感を得ることができるように、全生徒に対して一人一役の役割を与える。	運動会と文化祭における生徒の成就感は 90%を越える。	区の施策「たくましく生きる力」の育成に寄与している。	◎
人権尊重に配慮した個別指導	年 3 回のいじめ質問紙調査と個別面談の実施	得た情報をもとに、即時組織対応する。	いじめ発生率は全校で 0.8%であった。すべて組織的に即時対応し解決した。	「いじめはどこかで発生する」という危機感の共有堅持	◎
不登校生徒への対応	不登校生徒出現率を 3%以内とする	教育相談部会を中心として、個々の対応を共有し個別の方策を作成	不登校生徒出現率は 2.9%だった。	対応と予防指導に高い成果があった。	◎

重点的な取組事項－３学力向上を視点とした小中連携事業と OJT を活用した教員の指導力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携事業とＯＪＴによる教員の授業力向上	授業診断アンケートにおける肯定的評価を前年度比５％増	生徒がわかりやすい教科として積極的にとらえている割合 48.3%(昨年度 44.8%)	昨年度比 3.5%増 目標値には達しなかったが上昇傾向	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中合同による授業力の向上	教科別分科会を活かした小中合同の授業研究	年 2 回の小中連携日を活用して実施	6分科会に別れて指導案検討会の後、研究授業２回を実施した。	小中の学びの連続を意識できた。分科会の持ち方が課題	○
わかる授業の展開	小学校と連携しながら全教員が研究授業を実施	区学力調査結果をもとに、生徒のつまずきを明確にした指導案を作成	全教員が指導案を作成の上、研究授業を実施、近隣 2 小学校に公開した。	全員が 1 度は研究授業を行うことにより授業力向上につながっている。	◎
小学校への乗り入れ授業実施	乗り入れ授業 1 教科以上実施	小中連携推進委員会の企画に基づき実施	小中それぞれで研究授業はできたが乗り入れはできなかった。	乗り入れに関しては、目的不明確、時期尚早であった。	△

３．学校活動全般について

本校の強みは、教職員と生徒が強い信頼関係で結ばれていることです。学習・行事・部活等、学校生活のあらゆる場面で生徒を鍛え、真の感動を共有し、困難なことでも乗り切れる「たくましく生きる力」を育成します。特に、基礎学力の定着には重点をおき、教職員の日々の努力と強固な組織力で文武両道を歩んでいきます。